

【原子力】

◎主な配属先、業務内容

■本庁

原子力安全対策課



原子力発電所の現場確認

- 原子力発電所に出向き、運転や保守、安全対策工事等の状況を確認
- 発電所の運転・廃止措置状況や事故・トラブルの情報発信

■出先機関

電源地域振興課（嶺南Eコースト計画室）

- 地元企業、大学、研究機関等と協働し、Eコースト計画に基づき、原子力や再エネなど様々なエネルギーを活用した地域経済の活性化、環境にやさしいまちづくりなどを推進



試験研究炉の整備に向けた会合

原子力環境監視センター



空間放射線量率の監視

- 県内の空間放射線量率の監視
- 環境試料（土壌や海水、海産食品等）の放射能分析
- 原子力災害に備えたモニタリング資機材の整備

【原子力】令和3年度採用



原子力安全対策課

齋藤 裕希

(筑波大学大学院 数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻 修了)



【主な担当業務】

- 原子力発電所の運転や保守、廃止措置状況等の確認
- 発電所の稼働状況に関する資料の作成
- 原子力環境安全管理協議会の事務局業務

◎ある一日のスケジュール

8:30 業務開始、 メールチェック	8:45 原子力環境安全 管理協議会資料 の作成	10:00 電力事業者と 打合せ	12:00 昼休み	13:00 原子力規制委員 会審査会合ウェ ブ配信を視聴	15:30 打合せ報告資料 の作成	17:15 業務終了
--------------------------	-----------------------------------	------------------------	--------------	---------------------------------------	-------------------------	---------------

◎福井県職員を志望した理由

県外で原子力に関連する仕事を行っていましたが、自身や周囲の環境が変化していく中で、**生まれ育った福井県に戻って仕事をしたい**と思うようになっていきました。

そうした折、福井県の原子力職の募集があり、自身の経験を活かしつつ、地元貢献していくことができると考え、県職員を志望しました。

◎仕事をはじめて感じていること

担当業務では、電力事業者からだけでなく、様々な関係者（県民、各種団体、原子力の専門家、関係省庁・市町など）から**多種多様な考えや意見をお聞きする機会**があり、**原子力発電は多くの方々の関わりの中で、事業が進められている**ということを実感しています。

◎魅力・やりがい

原子力発電とその規制は、法律上は電力事業者と国の間で完結していますが、県としては、県民の安全を第一に、事業者と安全協定を締結し、独自の監視を行っています。

また、発電所の運転状況やトラブル情報などの報告を基に、事業者の安全対策や国の安全規制に対し、必要に応じて提言を行っています。

このように、**原子力発電という国民の生活に関わる重要な事業に携わり、発電所の安全確保という形で地元大きく貢献できる**ことが魅力であり、やりがいのある業務だと考えています。

◎採用試験対策

仕事を続けながらの試験対策であり、多くの時間を割くことができませんでした。

教養試験については、得意分野の数的処理の出題数が多く、十分点数が取れると見込めたことから、専門試験対策を集中的に行うことにしました。専門試験については、仕事上ある程度基礎的な知識は持っていたため、特別な勉強は不要と考え、当時の担当業務の関連で試験に出そうな範囲を確認していました。

面接に関しては、**基本的な質疑について確認**するとともに、県外在住であったため、意識して**福井県に関連する時事ニュース等を収集**し、事前に自分の考えを整理しておきました。

◎後輩たちへ一言

原子力職の職員は10名程度と少ないですが、他の職種の職員と協力しながら、**原子力発電所の安全確保という福井県において非常に重要な役割**を果たしています。安全確保のために妥協せず、自分の考えをしっかりと持って物事を進めていける方の応募をお待ちしています。